

年頭のごあいさつ

宮古市長

山本 正徳

令和6年の年頭にあたり、謹んでごあいさつを申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症による行動制限が緩和され、人の流れやにぎわいが戻ってまいりました。一方、燃油・物価高騰が、暮らしや経済に大きな影響を及ぼしております。時機を逸することなく、地域経済の回復につながる対策を講じ、一日でも早く平穏な暮らしを取り戻せるよう努めてまいりました。

令和6年度は、市の最上位計画である宮古市総合計画「前期基本計画」と人口減少・定住促進対策の指針となる「宮古市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の最終年度を迎えます。『総仕上げ』の年として、宮古市の将来像『「森・川・海」とひとが調和し共生するやすらぎのまち』の実現に向けた施策を力強く展開してまいります。

省エネルギーと再生可能エネルギーの導入の取り組みを加速させ「地域脱炭素の実現」と「地域内経済循環の拡大」を目指してまいります。住宅の省エネ化を促進するため、高効率機器更新に対する支援制度を創設するほ

か、地産電源の確保として令和7年度稼働に向けた夜間連系太陽光発電所の工事が始まります。太陽光発電事業の実施にあたっては、市内事業者からの出資、市民ファンドの募集を予定しており、地元参加型の発電事業となるよう取り組んでまいります。



「宮古駅前再開発」と「にぎわいのある中心市街地の形成」に向けた準備を進めてまいります。都市再生特別措置法に基づく「立地適正化計画」の策定、中心市街地のにぎわいづくりに向けた「市道末広町線無電柱化工事」は、それぞれ令和6年度の完了を目指し取り組んでまいります。旧「キャトル宮古」の跡地は、老朽化が進む建物の解体設計と危険箇所への応急対策を行うほか、再開発にかかる官民連携事業の導入に向けた調査を実施いたします。

「結婚・出産・子育ての希望をかなえる少子化対策」を、より充実させてまいります。これまで、幼稚園・保育所の利用料および小中学生の給食の無償化、18歳までの医療費の現

持続可能なまちづくり～

物給付、在宅で子育てしている世帯への支援金の給付など、国・県による支援に上乘せし、子育て世帯の経済的負担の軽減に努めてまいりました。新たに4月からは、奨学金貸付制度における貸付要件と、返還免除の要件を緩和します。自らの夢に向かって進学を希望する学生の皆さんを応援してまいります。

「多様な人同士が認め合い・集い・楽しめる地域」の実現を目指してまいります。昨年は、8月の「MSCベリツシマ」をはじめ、これまで最も多い8隻のクルーズ船が寄港し、多くのお客様をお迎えいたしました。また、市内観光をお楽しみいただいたほか、三陸沿岸道路、宮古盛岡横断道路、三陸鉄道などを利用した広域観光を楽しまれる方々も多く見られました。本年も多くのクルーズ船が寄港する予定です。沿岸の中央に位置し、県内で唯一大型クルーズ船を受け入れられる宮古港の優位性を活かし、宮古地域ならびに県内各地の交流人口の拡大に向け取り組んでまいります。

昨年9月には「パートナークルーズ・ファミリーシップ制度」を導入いたしました。人生のパートナーとして約束した方々が大切な人たちとともに家族として暮らすことができるよう、多様性を認め合う社会をつくりあげてまいります。

国際交流の推進も、多様性のある社会も、市民の皆さまのご理解とご協力により実現できるとのことです。

宮古市には魅力ある“もの”や“場所”がたくさんあります。昨年5月に行われた将棋の第8期叡王戦五番勝負第4局、藤井聡太八冠（当時六冠）と菅井竜也八段による激戦は、全国の注目を集めました。特に、対局棋士のお二人が乗船した遊覧船「宮古うみねこ丸」をはじめ、「川井ペリーラ」、「三食井（宮古トラウトサーモン、生ウニ、イクラ）」や「三陸鉄道」は大きな話題となりました。

また、昨年12月には、三陸ジオパークが日本ジオパークとして再認定されたところであり、このような、宮古の持つ素晴らしい“地域資源”の価値を再発見・再認識するとともに、さらに磨き上げ、宮古の魅力を国内外に広めていく取り組みを継続して進めてまいります。

宮古市のあるべき姿「安定した仕事を持つて、子どもを幸せに育てられるまち」、多様な個が輝く地域社会の実現による持続可能なまちづくり「宮古創生」に総力を挙げて取り組んでまいります。

結びに、市民の皆さまにとって、本年が実り多き素晴らしい一年となりますよう心からお祈り申し上げ、年頭のあいさつといたします。

宮古創生 ～多様な個が輝く